

企業インタビュー

# 積極的なM&A展開 金門光波を子会社化

## 西本社長「He-Cdレーザーに強み」 藤本常務執行役員「オンリーワンの製品を」

マークテック（東京都大田区、西本圭吾社長）は、He-Cd（ヘリウムカドミウム）レーザーやUVファイバーレーザーなど各種レーザー機器・装置の製造・販売を手掛ける金門光波（東京都板橋区）の全株を取得し、完全子会社化した。西本社長は今年度の経営方針で「品質保証に關連する採力ある中小製造企業の受け皿」としてのマークテックビジネスシステム（MBS）の構築を掲げ、M&Aを中心とした資本提携や技術提携に積極的に取り組んでいる。今回、金門光波の新会長に就任した西本社長と、新社長に就任した常務執行役員の藤本司成田工務（生産管理・製造部・品質保証部）製造部長にマークテックおよび金門光波の事業展開と展開について聞いた。

「子会社化した金門光波は、ニッチな分野として活用が限られるレーザーは新エネルギー波の事業展開に期待している。将来的な領域（波長×パワー）産業技術総合機構によって製品展開を図っていく。この領域はニッチすぎると技術的に確立できないが、安定的に出ればはいるが、実用化に力できる企業は世界的にあたつては今後の半分以上は金門光波だけであらう。今後の生産化に向けた投資を進めていく」と、製品の強みを一方でUVファイバーレーザーに強みを見ている。



マークテック

小型化できるのは大きなアドバンテージであり、従来装置よりも用途が広がってほしい顧客も

増えたいと見ている。金門光波のレーザーも期待される。西本、マークテックの品質管理もこの面の効果として、収益を上げていくという目標は営業部門でのメンバーが大きい期待である。また、マークテックとの輸出業務の統合により、コネクティブも含んでいる。あわせて開発部門におき

は、協業やコンタクトが大きい。長期的には同社の技術活用が期待される。また、浸透試験やT1の分野も確立化に力を入れたい。アルミニウムが使用されるなか、このレーザーとして応用が余剰である。エプソン、3Dプリンターの普及が進んでいる。積層材の内部構造を制御するニーズの取り込みを検討している。

He-Cdレーザーは、長期的には同社の技術活用が期待される。また、浸透試験やT1の分野も確立化に力を入れたい。アルミニウムが使用されるなか、このレーザーとして応用が余剰である。エプソン、3Dプリンターの普及が進んでいる。積層材の内部構造を制御するニーズの取り込みを検討している。



UVファイバーレーザー装置

それラッシュアップして、より良い会社になることを考えている。また、マークテックの販路を使うことで、その分野の開拓はスピード感を持って進めていく必要がある。UVファイバーレーザーの出力を上げて強化をすることで、将来的にオンリーワンの強い製品を市場で出すのではないかと見ている。金門光波のワークスやメテックという領域はマークテックとしても新しい領域に踏み込んでいく。不安はあ

非破壊検査事業に力を入れたい。西本、現状、当社の主力ともいえる磁粉探傷試験（MT）に關連した事業の普及は難しいが、需要はなくなることはない。また、浸透試験やT1の分野も確立化に力を入れたい。アルミニウムが使用されるなか、このレーザーとして応用が余剰である。エプソン、3Dプリンターの普及が進んでいる。積層材の内部構造を制御するニーズの取り込みを検討している。今、金門光波の社長は成田工場に製造部長を務める藤本常務執行役員を充てた。西本、製造コスト削減の分野でニッチかつ競争力の高い製品を製造している。今後、業務の効率化を進めていくこととなる生産性の向上は可能だ。また、UVファイバーレーザーは圧倒的な市場の中で、その波長を長を発信できるという大きなメリットを有している。

西本社長は、2015年からマークテックの代表に就任。M&Aによる事業の多角化に積極的に取り組んでいる。今後、レーザー全体の相乗効果がグループ全体に新たな付加価値を創造する事が期待される。